

28G-pm08

タイ産ショウガ科天然薬物 *Curcuma comosa* 根茎の新規セスキテルペンとその抗 TNF- α 活性成分

中村 誠宏¹, ○許 鳳鳴¹, 曲 揚^{1,2}, 松田 久司¹, 二宮 清文¹, 安田 大恭¹,
Yutana PONGPIRIYADACHA¹, 呉 立軍², 吉川 雅之¹ (¹京都薬大, ²瀋陽薬大)

【目的】ショウガ科植物 *Curcuma comosa* (タイ名: Wan chak motluk) は、主にタイ、インドネシア、マレーシアなどの東南アジア熱帯地域に分布し、その根茎はタイ伝承薬として子宮出血の治療や抗炎症、健胃作用を期待して用いられている。今回、我々はタイ伝承薬の機能性成分の探索研究の一環として、タイ産 *C. comosa* 根茎の含有成分の探索研究に着手した。

【方法・結果】*C. comosa* (ナコーン・シ・タマラート市周辺栽培品) 根茎をメタノールで熱時抽出し、得られた抽出エキスについて、酢酸エチルおよび水にて溶媒分配した。得られた酢酸エチル分画について、順相シリカゲル、逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製し、6 種の新規セスキテルペン (+)-comosol (1), (-)-comosol (2), comosone I (3), II (4), III (5) および dimethoxycurcumenone (6) を単離・構造決定するとともに、セスキテルペンを含む計 34 種の既知化合物を単離した。また、得られた成分について TNF- α により誘発される細胞

死の抑制作用を検討した結果、glechomanolide (7, $IC_{50} = 40 \mu M$) および alismol (8, $IC_{50} = 44 \mu M$) に活性が認められた。

